

今月のインタビュー

株式会社 高山徳洋紙店
代表取締役 高山 格次さま

今月の女流・言葉涼し

坂東 眞理子さん

発行元 (株)日本総合コンサルティング/北野会計事務所
発行日 2010年1月7日



小学校の頃の一番の楽しみは、年に一度の家族旅行でした。時期は8月20日頃です。母が唯一、店を休むのがこの家族旅行の時で、旅行はお盆過ぎに少し落ち着くこの時期を選んでいました。旅行は一泊で、ほとんどが白浜温泉だったと記憶しています。ゲームセンターでたっぷり遊び好きなものを食べて、年に一度家族みんなで小さな贅沢ができる貴重なひとときでした。

この頃の私は運動神経がよく、近所の子供達といろんな遊びをしましたが、どれも負けることはなかったように記憶しています。例えば「缶蹴り」。鬼になった友達はいつも私に缶を蹴られ、なかなか鬼を変わることができませんでした。ある日、ずっと鬼をしていた友達はその缶にいっぱいの砂を詰め込み、何も知らない私は力いっぱいその缶を蹴って足の爪が割れ、血まみれになったことがありました。そうまでしないと捕まえることができないと思ったのでしょう。今思えば怖いことです。また「探偵と泥棒」という遊びでは、泥棒役の私は探偵役の友達になかなか捕まることなく一人で逃げ回っていました。いつまでたっても私を捕まえることができなかった友達は途中であきらめ、他の友達とともにこの遊びをやめて自分の家に帰っていたこともありました。とにかく逃げ足が速く、友達より持久力もあったので捕まることがなかったようです。

それから、体力以外の遊びにおいてもあまり負けた記憶がありません。たとえば「ビー玉」や「べったん」などにおいても勝負強く、家には友達から勝ち取った戦利品がいっぱいありました。この時期から仮面ライダーカードを賭けて「おいちょかぶ」という遊びも覚えましたが、こちらの遊びでも負けた記憶がありません。私が強かったのか、勝てる相手を選んで遊んでいたのかはよく覚えていませんが、ほとんど負けることはありませんでした。

一方、勉強はほとんどしませんでした。小学校での初めてのテストは0点で、いきなり女性の担任の先生にビンタをくらったのを覚えています。両親にも手をあげられたことのなかった私が、生まれて初めて顔を叩かれたのです。びっくりしました。おそらく私がふざけていたと判断し厳しく叱ったのでしょう。ところが私はテストの意味がわからず、どうしていいかわからなかったので名前だけを書いて提出したのです。とにかくそのことは強烈な思い出として残っています。

また、活字が嫌いでも本を読むことが大嫌いでした。母が買ってくれたアンデルセン童話やグリム童話などには全く手をつけず、漫画を読むことすら嫌いでした。いつも外で走り回っているか、家で弟と体を動かして遊ぶ毎日でした。とにかくじっとしていられなかったようです。でも母は私に「これだけはやっておきなさい」と言ったのが、漢字の百字練習とそろばんでした。他のことは長続きしませんが、この2つだけは中学に進学するまで継続できました。しかし、私の長続きしない性格はその後両親を悩ませることになります。

北野の履歴書
く夢の途中く
北野慎二

第2回
～ 幼少時代 ～

このコーナーでは、弊社代表北野慎二のこれまでの人生を、自らの言葉で2年(全24回)にわたってご紹介します。